

## オオシラビソ稚樹の移植作業（第2回）に参加しました

令和6年8月9日（金）、樹氷復活県民会議主催によるオオシラビソ稚樹の移植が蔵王国国有林で実施され、樹氷復活サポーター23名が参加してオオシラビソ林の再生に取り組みました。

当日は蔵王ロープウェイ蔵王山麓駅に集合し、樹氷高原駅から徒歩でオオシラビソの稚樹の自生地に200mほど移動しました。ヤブをかき分けて移植に適した稚樹を探します。採取のためにシャベルを立てると地中の石や木の根に当たったりして、掘り取り作業は一筋縄ではいきません。

採取できた稚樹を樹氷高原駅経由で山頂に運搬する途中、「渡り」をする蝶として知られるアサギマダラが、参加者の苦労をねぎらうようにヨツバヒヨドリの花の周りを舞って、見送ってくれました。

地蔵山頂駅の北に位置する区画で、それぞれ運搬してきた稚樹を移植します。採取した場所とは異なりササの根茎が地中に張り巡らされていて、さしもの「植木ショベル」をも跳ね返す強靭さには閉口します。それでも次第にコツを掴んで植穴を掘り、全員が無事に21本の稚樹の移植を達成しました。

移植した現地では樹氷を形成している樹高10m前後のオオシラビソがほとんど枯死していますが、何本かのキャラボクなどの低木が頑張っって生存しています。私たちの背丈すれすれのミニサイズの立木ですが厳しい気象条件に耐えて今日まで数十年前から？ ひょっとしたらそれ以前から現地で生育してきたかも知れない、盆栽のような恰好をした貴重な個体です。自然環境を維持するという目的もあり、ササを除去する等移植箇所を整備する際には刈払わずに大切に保残しております。

この日の移植により、山頂駅付近の移植区画への植栽本数は、移植を始めた令和元年度からの累計で237本となりました。当日汗を流して下さいましたサポーターの皆様を始め、移植に携わって下さいました方々および関係機関の皆様大変おつかれさまでした。

